

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成 26 年 3 月 1 9 日～3 月 3 1 日までの 1 3 日間、1～2 年生 3 3 名が 2 グループに分かれ、イギリスのロイヤルレミントンスパークとスワネッジにホースステイしました。コヴェントリーに滞在した生徒たちはキングヘンリー 8 世スクールと交流し、スワネッジに滞在した生徒たちはインターナショナルカレッジ“ハローハウス”にて研修をしました。

実施概要について

<ロイヤルレミントンスパークコース>

生徒は 2 名ずつ各ホストファミリー宅にお世話になりました。平日の昼はホスト校で基本的な英会話やイギリスの歴史・文化について学習しました。そのうちの 2 日は、それぞれロンドンとオックスフォードに出向いて研修を行いました。休日には生徒は各ホストファミリー宅で過ごし、交流を深めるとともに、英語でのコミュニケーションの力を高めました。

<スワネッジコース>

各家庭に 2 人ずつホームステイして、1 3 日間を過ごしました。平日の 9 時から 1 2 時半までは、習熟度別クラスで授業を受けました。授業内容はクラスによって様々でしたが、チームに分かれてゲームをしたり、家族構成についてお互いに英語で質問し合うなどの英会話の授業がほとんどでした。平日の 1 3 時半から 1 7 時まではアクティビティに取り組みました。ここでは、ナットボールやベンチボール等の日本とは少し違ったスポーツを楽しみながら交流を深めたり、ボーンマスやプールで実際に英語を使って買い物をする中でコミュニケーション力を高めたり、クイズ形式のアクティビティに取り組みることによって街の歴史に触れたりすることができました。城跡の見学や、ストーンカービングの体験にも取り組みました。

授業後や休日はホストファミリーと過ごしました。一緒に映画を見に行ったり、ホストファーザーのバースデーパーティーに参加したり、折り紙や箸の使い方を教えたりして現地の人々との交流を深め、文化の違いを学びました。

福島現状発信や現地におけるエネルギー学習について

別紙参照

実施後の反省について

<ロイヤルレミントンスパークコース>

ホストファミリーの親切な世話もあり、生徒たちは楽しく有意義に研修を終えることが出来ました。また福島県の現状と復興への取り組みについても、十分に理解してもらえました。ただ、研修をより意味あるものにするためには、事前に、今まで以上に生徒の英語力の向上をはかるとともに、地歴科と連携してイギリスの歴史や文化について学んでおくことが必要でした。

<スワネッジコース>

英語の学習と現地の歴史や文化に対する学習が不十分でした。クライストチャーチやコーフ城、大英博物館等、歴史ある所に見学に行ったにもかかわらず、英語の説明が理解できないという場面が多々見られました。英語力が低いことはもちろんだが、事前学習に時間をかけ、各見学先の情報を多く持って行くことで、より英語の学習も生徒の興味も深まるのではないかと感じました。

<ロイヤルレミントンスパークース>

○ 福島が発信について

研修の最終日に、ホスト校の生徒・教員及びホストファミリーを招いて、次の内容についてプレゼンテーションを行いました。

- a) 東日本大震災における福島県の被害状況 b) 原発事故と放射能汚染の状況
c) 復興に向けて(除染と風評被害との戦い) d) 福島県の伝統文化と伝統行事

津波については動画で、放射能汚染や人口・農産物生産高の推移については図やグラフを、除染や農産物の放射能検査の様子は写真を多用し、プロジェクターを使って出来るだけ視覚に訴える形で説明を行いました。伝統行事では、会津のそれだけではなく須賀川市の「松明あかし」を取り挙げました。「松明あかし」は震災の年の中止の危機を全国からの支援によって乗り切り、今は材料の放射能検査を行って開催していることを紹介し、福島県だけでなく日本全体が震災に負けず復興に向けて頑張っていることをアピールしました。

生徒たちが事前に十分な準備をして臨んだことやプロジェクターを使って説明したことで、聴衆の興味・関心を引きつけることができました。聴衆の真剣な様子から、福島県が風評被害と戦いながら力強く復興に向けて頑張っていることは十分に伝わったと感じています。

○ 現地のエネルギー事情学習について

研修の中日(3月26日)、午前中に次の内容を取り挙げ、コヴェントリーにおける省エネと環境に優しい取り組みについて学びました。

- a) 公共交通のあり方について b) ゴミの分別について c) オーガニック商品について

午後は学校の近くにある公園を散策し、省エネや環境保全の取り組みによってコヴェントリーの自然環境がどのように保全されているかを学びました。生徒のなかには、公園内の植物などを写真に撮り、帰宅後、その写真を基に植物の名前だけでなくイギリスのエネルギー事情や自然保護の取り組みなどについて、ホストファミリーから更に教えてもらった者もいたようです。

<スワネッジコース>

○ 福島が発信について

現地時間の3月26日(水)の授業終了後、ハローハウスに通学していた生徒、約80名の前で英語によるプレゼンテーションを行いました。福島の現状を伝えたいということで、震災時の写真を見せながら、津波や原子力発電所の事故による被害について説明しました。震災直後と現在の状況を比べながら、福島の復興についても言及しました。

発表後には、被害が大きかった地域のこと、自分たちが住んでいる会津若松市のこと、復興への具体的な取り組みについて等、数名の生徒から質問があり、福島への関心の高さが伺えた。

○ 現地のエネルギー事情学習について

街の散策において、通常の果物と有機栽培の果物の値段の違いや、チャリティーショップがどのように環境を助けているかを調査した。また授業の中で、イギリスの環境に関する内容を学んだ。イギリスでは環境について次のように考えていることがわかった。

<環境にとって良いこと>

- ・森林再生・部屋を出る時は電気を消す・週に1回は歩く、または自転車を利用する
- ・ソーラーパネルの使用・リサイクル

<環境にとって良くないこと>

- ・ゴミを分別しない・フロンを含む殺虫剤の使用・森林伐採・家の断熱がしっかりしていない
- ・車をシェアしない、または公共交通機関を使用しない・汚染水

